渓斎英泉　美艶仙女香
江戸時代・19 世紀　奈良県立美術館蔵

# どう生きる？

## -- 美術、読書とともに

みなさんの日々の生活は、どんな感じでしょうか？

仕事をする、学校や病院に行く、家事をする。眠る、起きる、食べる。これら「しなければならないこと」の合間を、趣味や娯楽と呼ばれる様々なことで埋めている、そんな感じではないでしょうか（もちろん「疲れて何もできん……」という日もあるでしょうが）。

日本の余暇の動向をまとめた『レジャー白書 2024』P.25 によると、2023 年の余暇活動の参加人口上位 10 種目は、多い順に

- 国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）
- 外食（日常的なものは除く）
- 動画鑑賞（レンタル、配信を含む）
- 読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）
- 音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FM など）
- ドライブ
- 映画（テレビは除く）
- ウォーキング
- 複合ショッピングセンター、アウトレットモール
- SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション

一方、当館に所蔵があるもっとも古い『レジャー白書‘91―日本のバカンスを考える―』P.11 によると、1990 年は

- 外食（日常的なものを除く）
- ドライブ
- 国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）
- カラオケ
- ビデオの鑑賞（レンタルを含む）
- バー、スナック、パブ、飲み屋
- 動物園、植物園、水族館、博物館
- 遊園地
- トランプ、オセロ、カルタ、花札など
- 園芸、庭いじり

という結果でした。人は余暇に何をして過ごしているのかの傾向が、時代とともに変化していることがよく分かり、興味深くないですか？

これらは収入を得るための仕事、生活を成り立たせるための家事、睡眠などと違って、私たちが生きていくために必須とは言えないものです。しかしながら私たちの生活はそんな、乱暴に言ってしまえば「どうでもいいけど、大事なこと」がなければ、あまりにも味気ない。

ところで、何かを楽しめるということの背景には、ひとりひとりの経験、知識があります。

たとえば国内旅行に出かけたとします。そこがどこなのか、どんな歴史をもつ場所なのか、おいしいものが何なのか、知っているほうがきっと気付けることも多く、楽しめる（いや、同行者に最高に愉快な友人がいれば場所なんて問わず始終おもしろおかしく過ごせる可能性がないとは言いませんが）。

たとえば、コロナ禍に大流行した「あつまれ どうぶつの森」。私はやったことないのですが、美術品を蒐集したりできるそうですね！ゲームの中で「いきなめいが（富嶽三十六景神奈川沖浪裏）」に触れていた人が、現実で本物の作品に触れたならば「どうぶつの森や！！！」と盛り上がってしまうのでは？盛り上がりが高じて葛飾北斎の版画集を手に取ってしまったりもするかもしれません。ゲームでの経験、現実での経験、どちらかが欠けていても得られない感覚が、そこにはあると思いませんか。人生とは、これらの感覚に気付くことの連続によって彩られているとは言えないでしょうか？

たくさん知って、たくさん経験する。その結果、人生がどんどん面白く、愉快になる。美術鑑賞も読書も、知ることや経験することを大いに助けてくれる営みです。今回の展示を通じて、みなさんの余暇の一部に「美術を鑑賞する」「本を読む」が加わってくれると嬉しいです。

楽しく、面白く。みなさまの日々に彩り多からんことを！